

1本の綱の上でジャンプや回転技を繰り広げる新しいスポーツ「スラックライン」の全国大会で、東浦町藤江、藤江小6年細江樹君(12)が、小学生以下の部で3位に輝いた。練習を始めて半年余りでの入賞に「来年は1位を」と、ますます熱中している。(出口有紀)

新スポーツ「スラックライン」

綱上の離れ業全国3位

スラックラインは「たるんだ綱」という意味で、綱渡りのようにベルト状の平たい綱の上で取り組む競技。ただ歩くのではなく、跳びはねて体を回転させたり、宙返りしたりの技を繰り出す。数年前から欧州を中心に人気が出ているという。

細江君が練習を始めたのは今年三月。父元氣さん(左)がインターネットで競技の存在を知り「バランス感覚を養えて、練習している空手にも役立つのでは」と勧めた。最初は体の重心を保てずに綱から落ち続けで怖かったが「難しい技ができるとうれしい」と少しずつ乗り越えてきた。今も

東浦の細江君(藤江小6)入賞

週四回ほど練習している。本オープンスラックライン九月に東京であった「日選手権大会」の小学生以下



「来年は1位を狙う」と、練習に熱中する細江君。東浦町生路の町体育館で

の部には十二人が参加。二人一組の決勝トーナメントは一人二分の持ち時間で、幅五センチの綱から落ちずにいかに難しい技を決めるかが勝負。細江君は立った状態から背中を綱の弾みを付けて再び立ち上がる技「バックバウンス」などに挑戦。失敗して準決勝で敗退したものの、三位決定戦で勝利した。

「あきらめず、集中する力がついたのでは」と息子の活躍に目を細める元氣さんは、五月に仲間らと愛好者団体「愛知スラックラインパラダイス」を結成。名古屋や豊田などでも教室も開いている。

細江君は、尻で体を弾ませて体を三六〇度回し、胸で綱に着地して元に戻る大技「フリーフォール」の猛練習を重ねている。「愛知でも競技を盛り上げたい」と親子で願っている。